



東京多摩プロバスニュース

第 110 号



■事務局: 〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮 1-17-18 登坂征一郎方 ■電話: 042-375-5878

■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com> ■編集・発行: 広報委員会 2024. 1. 10.

楽しくなければプロバスではない

第 233 回 定例会

日時: 令和5年11月1日(水)午後1時30分より

場所: 関戸公民館8階 第3学習室

お客様: 東京薬科大学元教授 志田保夫氏

出席者: 11名 (会員数: 15名)

第 234 回 定例会

日時: 令和5年12月6日(水)午後1時30分より

場所: 関戸公民館8階 第1学習室

お客様: 笹子追分人形保存会会長 天野茂仁氏他1名

植田珠峰子様(ご見学)

出席者: 8名 (会員数: 14名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



新年を迎えて

令和6年新しい年を迎えました。旧年中は何かとお世話になりました。本年もよろしくお願ひいたします。

さて、今年は我が東京多摩プロバスクラブは節目の創立20周年記念となる年になりました。多忙の中のボランティア活動、東京多摩プロバスクラブ会員全員が一丸となり全日本プロバス協議会をはじめ東京八王子・東京日野・横濱・鎌倉・埼玉浮き城、各プロバスクラブ様のご支援ご協力を頂き、楽しみながら記憶と記録に残せる記念となる1年にしたいと考えております。皆様のご指導ご鞭撻よろしくお願ひいたします。

私事、一昨年に自身の不注意により患った脊柱管狭窄症と腰椎圧迫骨折も手術が成功裏に無事回復に向かうことができました。退院後懸命のリハビリと適度な運動、趣味と散歩を兼ねたタウンウォッチング、プロ野球、高校野球、ラグビー等ライブでのスポーツ観戦、カラオケ等により急速な回復ができました。お陰様で昨年は非常に近づいた活動ができました。一時は断念したゴルフも昨年11月からラウンド可能となり2年振りにクラブを握る事ができ早速、八王子・日野・多摩3クラブ合同のゴルフコンペティションにも参加することができました。皆さんのアシストも頂きながら成績はともかく無事18ホールのラウンドができました。私にとりまして昨年一番の嬉しい出来事であり感謝の気持ちで一杯です。今年は私が関わっている幾つかの団体、趣味のサークル等の活動をコロナ禍以前の状態に戻せるように自身の体調管理も十分に考慮しつつ微力ながら尽力する所存でございます。

小林務会長



多摩センター駅周辺の歩行者用の大橋

「楽しくなければプロバスではない」をモットーにプロバスクラブの益々の発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

◆◆◆ 幹事・委員会報告 ◆◆◆

1. 幹事報告

小島明幹事

- 1) 12月1日・8日の両日多摩市社会福祉協議会の歳末助け合い運動の街頭募金を桜ヶ丘駅前で社協職員・社会福祉協議会協力委員(小島)・民生委員・そして当クラブからボランティアとして秋山・伊藤・登坂・片倉・小林各会員の協力で行いました。この募金は多摩市の自治会・管理組合・子ども食堂等の補助金として使用されます。
- 2) 12月15日20周年の記念誌の祝辞依頼書を多摩市長・東京多摩ロータリークラブ会長に届けました。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

酒井善夫委員長

- 1) 第233回定例会：11月1日(水)、関戸公民館8階第3学習室
*出席者：11名(会員数15名=会員12名+休会員3名)
 - ・北村克彦会員が復帰されました。
 - ・誕生祝い11月：該当者なし
 - ・講話：「生活の中の化学」志田保夫氏
東京薬科大学元教授 詳細3頁参照*定例会終了後、京王クラブにて志田保夫氏と楽しく懇談会を設けた。
- 2) 第234回定例会：12月6日(水) 関戸公民館8階第1学習室
*出席者：8名(会員数14名=会員11名+休会員3名)
 - ・見学者 植田珠峰子様。
 - ・誕生祝い12月：該当者なし
 - ・卓話「映像で観る笹子追分人形芝居」小林務会長および笹子人形保存会会長天野茂仁氏他1名 詳細4頁参照*定例会終了後、京王クラブにて天野茂仁様他1名と楽しく懇談会を設けた。

2.2. 研修・親睦委員会

片倉満委員長

- 1) 令和6年5月18日は当クラブ創立20年。その記念事業イベントの準備作業。
- 2) 今春の屋外研修地となる国立科学博物館見学の下見。
以上2案件に取り組んでまいります。

2.3. 地域奉仕委員会

秋山正仁委員長

今期の新しい取り組みとして10月に自主的にスタートした「ニコニコハッピーBOX」に皆様のご協力に感謝します。10月、11月、12月の分を合わせて、計49,510円を多摩市社会福祉協議会へ寄付金として届けました。このお金は令和5年度赤い羽根共同募金として使用されます。

(ニコニコハッピーBOXの拠金者の思いは、広報委員会にてまとめ・発表致します。) 詳細5頁参照

2.4. 広報委員会

伊藤健一委員長

- 1) プロバスニュース第110号；1月10日発行・配布予定。
- 2) ホームページの更新公開は上記ニュース発行後に予定。
- 3) 会員、会友の皆様からのご寄稿を随時募集いたします。
(私と多摩・我が故郷・私の趣味・私の一品・対外活動・

旅行記・エッセイなどテーマは自由です。400～1000文字)
4) 創立20周年記念誌制作の準備として、ワードの書式違いの扱い方、プリントバックの印刷等の検討を実施。引き続き掲載内容の収集、編集準備を進める。
5) 当クラブの会員増強を図るために、広報の立場から会の活動を広く知らしめるように検討する。当面は、東京多摩プロバスクラブのインスタグラムなど、SNSの活用を進めたい。

2.5. 事務局報告

登坂征一郎会員

- 1) 東京八王子PCプロバスだより第335号(10月12日)
 - *卓話「運動神経の発達する注射」泉道夫氏
 - *地域奉仕委員会「小・中学校の合唱応援祭り」の取組み
 - *全日本プロバス協議会五所川原大会の参加、日野PCと合わせ17名の参加
 - *寄稿「プロバス賛歌の生まれた時のこと」立川富美代氏
 - 寄稿「縄文の旅」(三内丸山遺跡)池田ときえ氏
- 2) 東京八王子PCプロバスだより第336号(11月9日)
 - *卓話「子どもたちの幸せのために」深谷正徳氏
 - *学習アドバイザーの「100問チャレンジ」の紹介
- 3) 全日本プロバス協議会(9月吉日発行)
 - *次期会長候補決定、旭川PC馬場康博氏
 - *第11回全日本プロバス協議会五所川原の案内
- 4) 日野PCプロバスだより第153号(10月19日)
 - *パソコン一口情報 画像のテキストを抽出や手書き文字をテキスト文字にする方法

◆◆◆ 行事報告 ◆◆◆

忘年会開催

研修・親睦委員会片倉満委員長

令和5年もあつという間に終わりに近づき12月6日、定例会終了後、京王クラブ(多摩市関戸2丁目)にて行われました。

参加者は直前に笹子追分人形芝居の話を読まれた講師2名の方、益々お元気で饗饌とした阪東熙子会友は久方ぶりにクラブメンバーに会える喜びからと参加され、盛会となりました。話題は会員数増加のうまい方法はないものだろうか、会友の方々と過ごした頃の楽しい思い出話など、一献傾けながら話は尽きません。午後6時過ぎ散会となりました。



忘年会に参加した皆さん

ただ誠に残念なことは、忘年会直前までプロバスクラブ活動に取り組み、当クラブに多大な貢献をされた秋山正仁会員が、心不全により急逝されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

生活の中の化学(フグ毒に魅せられて)

東京薬科大学元教授 志田保夫氏

去る11月1日に話させていただいた話の後半を原稿にいたしました。蛇足部分も多いのですがお許しください。



私の仕事は大学で化学分析をすることであったが、高校、大学では電気と物理しか勉強してこなかったので化学分野に飛び込んでから独学と関係研究室のセミナーで分析の原理などを勉強してきた。

出発は東大の研究所であるが、その後勤務した大学では一般教養の物理、近所の美大で非常勤講師として物理、化学などで教壇に立ち大勢の若者と出会ってきた。

さて、仕事を始めて10年ほど経ったころ東大水産学科の先生からフグ毒の分析の依頼を受けた。検出結果ができたとき、この試料はボウシュウボラの中腸線で、フグ以外の魚介類から初めて毒を検出したところであった。この分析以来30年以上フグ毒と係りながら研究を進めていくことになったのである。海底にいるフグの餌になるような魚介類をたくさん検査したところ次々検出し、フグ毒は食物連鎖により蓄積される証明の一端を担うことが出来た。海の中の環境中の試料が多かったため大学院生や関係のある研究室から数千検体を超える試料を分析した。フグの表皮からもフグ毒を検出したことから、彼らは捕食者が現れると体の表面からフグ毒を出して身を守る方法を身に付けているらしいことも発見。フグ以外にフグ毒をもつ魚にツムギハゼがいるが、この発見もこの先生の発見である。食物連鎖でフグが有毒魚になるなら養殖で無毒のフグが生産できるのではないかと。今は成功しているが無毒でも肝の提供は禁止である。研究室の卒業生は、長崎、広島、静岡、四国、都内、韓国、台湾の留学生なども各大学へと分散して独立して魚介類毒の研究を進めている。今でも毎年新年会や学会などで顔を合わせて旧交を温めている。

ここで生々しいことを書くが、フグ毒の症状について書いてみる。20分ほどで唇や舌先などに痺れが生じ指先など抹消がしびれてくる。体調を本人に聞いても既にしゃべれない状態になっている。運動神経がマヒするためやがて呼吸困難に陥り、心臓も止まり死にいたる。

江戸時代には山の方に名医がいるとか。荷車や戸板に乗せて医者まで運んで行く。名医が漢方薬を飲ませるとやがて患者は歩いて帰るとか。中毒にかかって1時間生きていれば快方に向かう、気休めに飲んだ薬でも元気になるのであって、致死量を食べた患者は着く前に息が絶えていることになるのでこのよううわさが流れたのかもしれないが真偽のほどは？

フグ毒テトロドトキシンは2mgで大人の致死量になる。塩の1粒か2粒の量である。トラフグは有名だが、名古屋

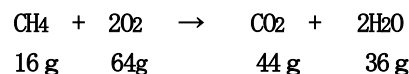
フグなどという名前の仲間もいる。なぜ名古屋？昔は美濃とか尾張と呼ばれていた地域である。食べたら美濃尾張という洒落からきている。キタマクラなどというフグもいるが語源は想像に任せよう。

話は変わるが、有名な毒植物にトリカブトがある。毒成分はアコニチンという名前だが、こちらもフグ毒と同じくらいの毒性を持っている。しかし中毒症状はフグ毒と正反対で心臓にも激しい作用をする。少量用いると薬にもなり、漢方薬ではブシとして使われている。まさに使いようによっては毒にも薬にもなる植物である。この2種類の毒を使った殺人事件が有名なトリカブト事件である。この事件が起きたときしばらくして警視庁捜査一課の刑事がやって来て捜査に協力してほしいと。今では科捜研はTVで有名であるが、当時、うちでは装置も技術もありません。是非協力を！と何回も足を運ばれた。東北大で最初に被害者の血液からトリカブトの毒を検出したためこの名前が付いた事件になっている。私たち東大のグループの測定結果、被害者の保存血液からフグ毒を検出し犯人逮捕につながった。拮抗作用を巧みに利用した完全犯罪は不成立に終わったのである。

ここから少し平和な話に戻しましょう。

生卵とゆで卵はどちらが重いですか？というクイズに出会うことがある。答えは「同じ」であるが、これは化学変化を起こす前と起こした後でも重さは変わらないことを言っているのである。生意気に質量保存の法則などという言葉を使わせていただく。地球温暖化が叫ばれて久しいが、その原因の一つに二酸化炭素が取り上げられている。植物にとってはなくてはならない物質であるが、沼に落ちた枯葉などが腐敗して出てくるメタンガスも地球温暖化の原因物質として取り上げられている。都市ガスとして使われているのでなじみ深い気体である。

メタンが燃焼した時どれくらいの二酸化炭素が発生するか計算してみよう。化学式の下にgを入れた数字を書いてみた。分子量にgを入れたもので重さとして理解していただいていい。小さな数字は分子の数を表し大きな数字はその数を表している。



16gのメタン1分子が燃焼するには64gの酸素2分子が必要であるということを表している。これが変化前である。化学変化後は44gの二酸化炭素1分子と36gの水2分子が発生することを表している。変化前は合計80gの原料を使って変化後も同じ量の物質を作っていることを表している。つまり質量保存の法則である。わずかな原料でも燃料させると多量の二酸化炭素発生の原因になるということである。定年後は山梨大学を経て藤沢の会社で測定上のアドバイスをしながら香りの研究をしている。

「映像で観る笹子追分人形芝居」

小林務会長

東京多摩プロバスクラブ 12月定例会恒例となった卓話に、今回初めての試みとして私の出身の山梨県北都留郡初狩村（現大月市初狩町）西隣の笹子村黒野田（現笹子町黒野田）地区を説明します。甲州街道（国道20号線）を東京から西に笹子トンネルで有名な笹子峠の手前、現在は旧甲州街道・新甲州街道・中央高速道・JR中央線の鉄道トンネル其々の上下線等を合わせると笹子峠には、現在6本のトンネルが峠の下を抜けています。



江戸時代は江戸から甲州や信州方面に旅する場合は、旧甲州街道を歩いて旅をする旅人が、最も険しいと言われた笹子峠越えをする前に、必ず宿泊する為の旅籠を含め20数軒の集落が笹子黒野田追分地区であった。この集落の若者や有志達が以前に旅人の人形使いから伝授されたと言われる人形芝居をもとに、村人の若者たちが見様見まねで稽古を重ねて、その後の旅人達の慰安と、近郷近在の部落や集落のお祭り等に出向いて農家の座敷を借りて公演した。当時は他に娯楽や楽しみの少なかった村人や旅籠に泊まる旅人達から、大変喜ばれたそうです。

私自身も終戦直後、小学生低学年の頃に私の住む初狩村富士見沢集落（現初狩町富士見沢）のお薬師様の春祭り、秋の氏神様のお祭りには、集落の青年団の演ずる演芸会と笹子から出向いて公演された人形芝居が唯一の娯楽・楽しみであり、我が家の近くで公演されました。初めて観たときは人形を人が操ることが理解できずに、演目によっては怖さも感じ途中人人の背中に隠れ恐る恐る観た記憶もあります。年を重ねる毎に人形劇の不思議さに興味を持ち、こっそり裏方を覗きに行き、怒られながら演台の後ろに人が数人居て、その人たちが人形を操ることが漸く理解できました。

私が中学生の頃まで毎年公演が続いていたと記憶しています。その後何時ごろか定かでないが公演が途絶えた事も知らされた。要因は人形を操る人の人手不足と世の中の景気も上向き、人形芝居や演芸会の他に大月の町中に映画館ができて、映画鑑賞が娯楽の全盛時代と化し、ラジオの普及に合わせて流行歌・歌謡曲が流行り始めると、人々の娯楽と楽しみが其方に向いてしまい、当然の如くに人形芝居が没落の運命に晒される事は必然的に理解できました。

しかし地元有志の涙ぐましい程の復活にかける努力とご尽力により、見事に復活再開できました。時代も昭和から平成、令和に代わり、今から10数年前に田舎の初狩に帰省の折に、新聞か大月市広報掲載の笹子追分人形芝居公演のニュースを知り、思わず見物に大月市民会館を訪ねました。観客も数百人、市民文化祭に囚み市民会館劇場が入場料無料の為か、概ね満席状態であった。初めての演目が「吉窪美人鏡」だったと思います。地元笹子吉窪地区に伝わる民話が、お芝居向きに編集され公演されました。

子供の頃に観た笹子人形芝居がこれ程までに進化して昔とは違った文化芸術芸能性が発揮されての正しく遺産であり、日本の素晴らしい格調の高い文化財である事に確信を得た瞬間で有った。山梨県の無形民俗文化財に認定されることは当然であり、最早、国の指定も時間の問題である

と思います。

しかもこの劇団の保存会会長天野茂仁氏を始め事務局、劇団員の皆様にも、私の個人的な知人友人が関わっていることが判り、この素晴らしい芸術芸能文化を、日本国内は勿論世界中に発信することにより、大月市は無論、山梨県が後世に残せる最高の遺産であると考えます。

この素晴らしい文化遺産の継続継承に日夜地道な努力を重ねる地元関係者の皆様に心より敬意を表します。山梨県を愛する一人として、富士山とぶどうや果物以外にもこんな素晴らしい芸能文化遺産も有る事を県外の人々に伝えたく宣伝も兼ねて、先ず手始めに私が在籍する東京多摩プロバスクラブ会員の皆さんに、去る令和5年12月6日（水）定例会の多摩市関戸公民館学習室において「映像に観る追分人形芝居」を、山梨から遠路態々お越し頂いた会長天野様はじめ劇団員の稲葉様に、実物の人形を持参されて我々の目の前で実演しながら、笹子追分人形劇継承継続のご苦労話に始まり、歴史から最近の活動状況と観劇されるお客様の反応に至るまで1時間に渡り講演して頂きました。



写真左：天野会長による人形の所作の実演。足遣いは稲葉さん。
写真上：顔のいろんな表情の操作を実演。



写真上：映像による人形浄瑠璃の紹介

我がプロバス会員一同心より感謝申し上げます。定例会終了後、会員との交流・懇親も兼ねた粗宴の慰労会にも参加され、人形芝居以外の山梨県の近況話に花が咲き、一同楽しく充実した1日でした。笹子人形劇保存会の増々のご発展と皆様のご健勝ご多幸を祈り定例会並びに懇親会が無事終了お疲れ様でした。

会員の親睦と交流を深め、地域の諸問題に対応するために、楽しかったこと、嬉しかったこと、感謝・感激・感動などを気持ちを添えて投稿する「ニコニコハッピーBOX」がこの10月より設けられました。 (登坂征一郎会員記)

11月:

秋山正仁会員;普通車の運転歴60年。30年以上はゴールド免許。今年の10月に心身ともに健康を問う為免許の更新に挑戦したところ合格。あと3年、88歳まで運転はできるが車は廃車し、今はシルバーパスで移動中。毎日健康で嬉しい。ハッピーだ。

北村克彦会員;何とか84歳を経過して、皆さんとおつき合いさせていただいています。何かお手伝いできればいいけれど、私自身も体力を維持するのが精一杯です。

小島明会員;今日は久しぶりに皆さんと飲めることで!

小林務会員;先日、山梨方面へのバス旅行の帰り新宿駅19時頃の通勤快速高尾行きに乗車、車内は勤め帰りの人で超満員。やっとの思いに吊り革を探し、車窓から夜の街並みを眺めていた。前の座席の外国人の若い女性が「ドーン」と席を立ち上がり、私は思わず「サンキュー」と一礼して席を譲って頂きました。途中で下車した女性に再度黙礼し、座ることができた感謝の気持ちと合わせて楽しいバス旅行でした。

酒井善夫会員;生誕120周年記念の棟方志功展が東京国立近代美術館で開催されている。20代の頃から、どことなく魅力を感じていた。本当に本物を見るのは初めてであった。作品から何かを感じる程の芸術感覚がないせいか、こんなものかと思った。来館者も思いのほか多く、見にく

い所為もあったが—でも、その人物は圧倒的なものがある。その生き方が凄い。「わだばゴッホになる!」と人生を貫いた—私もそうありたいと思う。

登坂征一郎会員;6月に思いも寄らない腎臓にがんが見つかり、かなり進展しており、急遽、東京医科大学八王子医療センター泌尿器科で、7月に右腎臓の摘出手術を受けた。術後の経過も良好で、通常の体に戻りつつあります。医学の進歩への尊敬の念と今後の健康維持を祈念!

術後初の靴の軽きやねこじょうし 爽風

増山敏夫会員;今日は、北村さんが久しぶりに出席され、ハッピーです。お互いに病み上がり。頑張りましょう。

12月:

伊藤健一会員;伊藤雄二(次男)が、医学専門書「手術技術向上論」を初出版しました!婦人科腹腔鏡手術の専門医として、若いながらたくさんの手術経験を積ませていただき、その経験を少しでもお役に立てばとの思いで出版したようです。幼い頃からの病を乗り越え、ここまでよく頑張ったと感謝の思いです。

ご協力ありがとうございました。

10月: 37,000円、11月: 11,510円、

12月: 1,000円、計: 49,510円

10月~12月の会員各位の善意の寄進を、12月定例会終了後、多摩市社会福祉協議会にお届けいたしました。

◇◇◇ 寄稿(1) ◇◇◇

「多摩の秋を歩く」

登坂征一郎会員

クラブ発足の2年目、2006年の秋、「活力ある高齢社会を創造する」をモットーにした平均年齢71歳のプロバス仲間で、ニュータウンに散在する公園を連れ、多摩丘陵の尾根筋沿いの古道「よこやまの道」を通る10数kmのコースを、俳句を吟じながら散策し、最後は大谷戸公園の野外キャンプ場で芋煮会という「多摩の秋を歩く会」が催された。多摩に移り住んで35年このかた、初めて多摩市を歩いて縦断した。

多摩ニュータウンは、住宅環境に相応しい緑豊かな公園や緑地が団地ごとに散在している。人口当たりの公園の保有面積や、アクセスする道は車道とは立体交差、主要道路の街路樹、世界的にも有数の整備状況を誇っている。

また、万葉集にも詠まれている「よこやまの道」が物語っているように、この多摩の地は奈良時代のその昔、東国から九州の北辺を守る防人が行交い、鎌倉時代にはこの一帯で合戦が繰り広げられ、東国と西国を結ぶ要衝の地であったことなど、改めて郷土の新旧の歴史の一端を知った。

公園や緑地は数十年を経て木々の太い幹は苔むし、高く聳える梢の黄葉の間から巻雲が覗き、ニュータウンの真っ只中にあって自然に囲まれた閑静な空間を提供してくれる。この尾根筋沿いの古道「よこやまの道」から木の間越

しに緑に囲まれたニュータウンを見下ろす。団地を指差してその名を確認しながら歩く。

古道の雑木林の葉ずれの音が防人の囁きに聞えて来る。万葉集(巻20・4417)の「よこやまの道」の歌。

あかこま やまの はが と
赤駒を山野に放し捕りかいて

たま よこやまの し や うぎべのくろめ
多摩の横山徒歩ゆか違らむ 守運部黒女

「赤駒を山野に放牧して捕えられず、夫を徒歩で行かせてしまった。今頃多摩の横山あたりを歩いているのであろうか」という防人の妻の思いやりの歌]

さきもり やまご と
防人の振り返り見し山郷は

ふじを背にニュータウンの展がる 征一郎

古道を行き交った防人はどんな想いで振り返ったのだろうか?夕日を浴びた富士山を望み、森に囲まれたニュータウンが広がっている情景に感慨が……。一首を愚詠。

仲間とようやく辿りついた聖蹟記念館に、友人の菊花展を鑑賞。大谷戸公園での句会にと苦吟して一句。

辿りつきし記念館に菊香満つ 征一郎

ゴールの大谷戸公園では、先遣隊が料理した焼そば・豚汁に舌鼓を打って生ビールを酌み交わし、各々の俳句を吟詠して興じ、疲れも忘れ、小春日の日がな一日を楽しむ。

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

1. 餅句会『私の一句』 登坂征一郎会員

餅句会は令和5年5月までのコロナ禍においては、紙上句会や時には対面句会を織り交ぜて毎月欠かすことなく継続してきています。会員は8名で当プロバスクラブからは、5名(休会1名)で、ここでも会員増強の課題があります。

第197回餅句会が12月8日(金)開催され、その時の当クラブ会員・会友の作品の中の自句自解から『私の一句』として紹介します。

陽だまりに集まりし猫冬の暮 片倉 柳人

冬のとある日。陽だまりに集まる猫たちの長閑さと、師走の人々の忙しい様子を対比して作句しました。

日向ぼこいつしか子猫星びおり 蓮池 秋霜

腰痛と酸素ボンベとつながれた身、外出もままならず、一人日向ぼこで、とうと。気付けばいつからか子猫が横に並んでスースー。

ビルを撤去戻る昔の冬日影 増山胡桃子

駅前的大通り、七階建てのビル三つが撤去された。屏風のように道路沿いに立っていた。それがなくなって道路が明るくなった。昔の冬の日差しが戻ったのだ。何十年振りだろうか。再開発なので暫くの間だけなのが哀しい。

人の世かどガザの惨劇冬ざる 登坂 爽風

毎日のようにガザの惨状がTVや新聞紙上に報じられている。誰も止めることができないこの世界に、地上の世界はどうなってしまうのか。誠に歯痒いばかりである。

2. ゴルフ部報告 小島明会員

11月10日(金曜日)、3プロバスクラブ合同ゴルフコンペが八王子の東京相武カントリークラブで行われました。どこのクラブも年齢的に体の具合の悪い方が多く、八王子クラブ3名、日野クラブ7名、当クラブから飯作金彦・小林務・廣瀬昌英各会員・筆者4名の計14名で行いました。

新ペリア方式ですので運が悪く当クラブの成績はあまり良くなかったのですが、小林会長は久しぶりのゴルフでしたが良いスコアで大変喜んでおられました。

今回は八王子クラブが幹事クラブとして行われる事となりました。

唯一、架空の動物である辰は、海に千年、山に千年住んでいた蛇が、龍になったとも言われている。

『鶴飛千尺雪、龍起一潭氷』 禅語

鶴は一千尺も積もった雪原から大空に飛び立ち、龍は分厚い氷の張った池から一気呵成に天に昇ったと言われ、己の力を存分に発揮する譬えに鶴と龍が使われている。

禅寺の法堂に、雲龍図が多く描かれている理由は、龍が仏法を守護する八部衆の一つとされているからと聞かされたが、未だ八部衆のことが私にはわかってない。

最初に雲龍図と出会ったのは、昭和39年の甲辰の年で、有馬頼底管長の相国寺法堂と記憶している。天井の黒い眼

球を献茶式が終わって見上げると、「己を正せ」と檄を飛ばされたように感じた。その時、画龍点睛の語の意味を直感的に知った。



相国寺 蟠龍図・鳴き龍

滝廉太郎作曲の「お正月には凧揚げて、独楽を回して遊びましょ」昔の童謡を口ずさむ。龍神は安泰と長寿を祝うと言う。

全国のクラブ員とともに良い年でありますように！

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

「楽しくなければプロバスではない」

当クラブの今期のスローガンである。スローガンはクラブの会長が自身の姿勢として決めることになっている。

理想と現実の一致の難しさ。結果的になかなか一致しない。ところが今期ストレートな表現、理解のし易さ、当を得た表現だったと思う。有言実行の会長のカラーが、ニュースにも表れ出した。

○新年を迎えての会長ご挨拶：20周年記念行事を皆んなで力を合わせて。

他友好クラブとの交流を深めよう。ご自身の体調については、患いを重ねたが幸い復調を果し、活動に支障の無い健康を取り戻したこと。

○忘年会：12月定例会の後、定例会で講演頂いた笹子追分人形劇の2氏も参加され人形劇、伝統芸能の未来など盛り上がった様子。

○11月定例会講話、生活の中の化学(フグ毒)

小林会長の友人、志田保夫氏のお話。

(広報委員 増山敏夫会員記)

◇◇◇ 寄稿(2) ◇◇◇

今年の干支「辰」にちなみ 阪東照子会友

『三級の浪高魚化龍』 碧巖録

三級の浪高くして、魚が龍と化すと読む。中国太古の聖天子禹が、黄河の氾濫を治める為に、上流を三段に切り開き、水はけを良くしたという伝説から、険しい三つの滝を登り切った魚は出世して竜と成ったと解釈し、励ましの語と成った。出世上達の糸口を、登竜門といわれる所以だ。干支の中で

